

第12回（平成29年度第2回）
セーフコミュニティ外傷等動向調査委員会
《会議次第》

日時：平成29年7月10日（月）18:30～

場所：市庁舎13階1303会議室

1. 開 会

2. 報告事項

（1）第14回久留米市セーフコミュニティ推進協議会の結果について

<別冊>

3. 協議事項

（1）平成29年度久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査について

（2）事前指導のプレゼン資料（案）について

※ご意見・ご指摘などがあれば、7月14日（金）までにFAXまたはメール等にて事務局までご連絡ください。

4. その他

5. 閉 会

久留米市協働推進部安全安心推進課
担当：江原、松本、末安
TEL：30-9094 FAX：30-9706
Email：anzen@city.kurume.fukuoka.jp

外傷等動向調査委員会 委員名簿(敬称略・順不同)

	団 体 名	役 職	氏 名
委員	久留米大学	医学部教授	足 達 寿
委員	一般社団法人久留米医師会	理事	浅 倉 敏 明
委員	社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院	救命救急センター長	山 下 寿
委員	久留米広域消防本部	救急防災課長	橋 本 俊 之
委員	久留米市保健所	所長	内 藤 美 智 子
委員	久留米市	協働推進部長	井 上 謙 介

〈事務局〉久留米市 協働推進部 安全安心推進課
 久留米市 健康福祉部 保健所総務医薬課

（１）セーフコミュニティのこれまでの取り組みと今後の方針について

当市のセーフコミュニティの始まり

久留米市では、従前から地域や団体、行政などで安全安心のための活動が行われてきましたが、各地で発生する災害や犯罪、事故などにより、日常の安全・安心に対する市民の関心が高まる中、平成23年7月に「安全・安心」と「協働の推進」を基本理念とするセーフコミュニティの仕組みを活用した取り組みを開始しました。

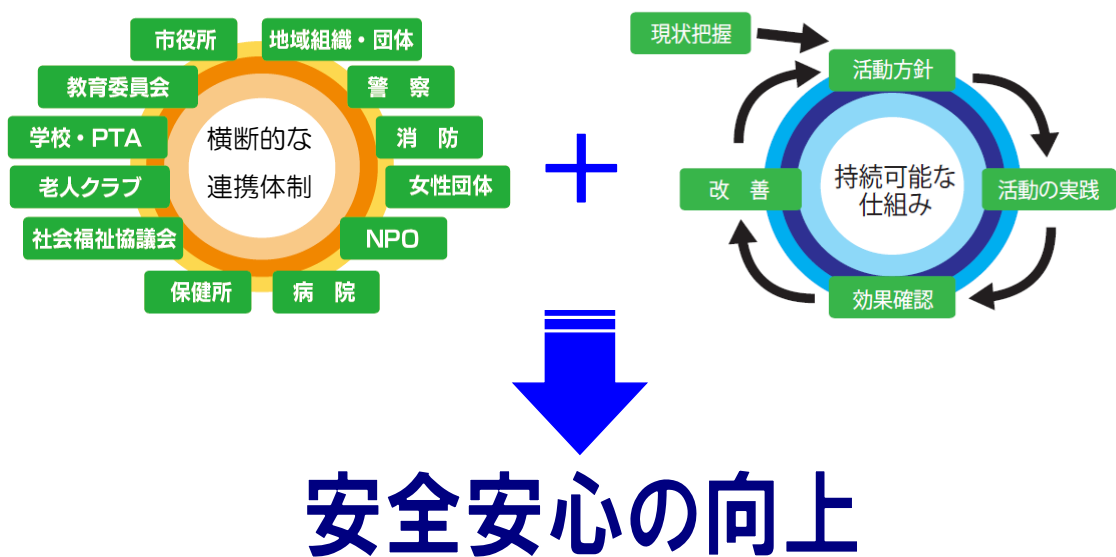
セーフコミュニティとは、WHO（世界保健機関）が推奨する国際認証で、「けがや事故などは偶然の結果ではなく、予防することができる」という考えに基づいて、予防に重点を置き、地域社会全体で進める安全安心なまちづくりの取り組みや、それを行う地域のことを指します。

国際認証「セーフコミュニティ」の取り組みと認証取得への効果期待

- ・けがや事故の減少により、安全安心が向上すること
- ・安全安心に向けて市民総ぐるみで一体的に取り組むこと（協働）で、人とのつながりが強化されること
- ・統計データ等を用いて客観的な評価・検証をするので、取り組み効果が向上すること
- ・国際認証自治体として、「安全安心のまち久留米」のイメージや知名度が上がること

セーフコミュニティの特徴

セーフコミュニティでは、様々な統計データやアンケートなどを活用して、現状把握、課題分析を行い、予防策を講じてその効果を検証し、取り組みの更なる改善を図っていくのが特徴と言えます。



取り組み宣言以降の主な経過

- 平成23年7月 セーフコミュニティの取り組み宣言
- 平成23年11月～ セーフコミュニティ推進協議会・庁内組織などの組織体制整備
6つの重点取り組み分野、10の重点取り組み項目などの設定
- 平成24年3月～ 8つの対策委員会を設置、48の具体的施策の決定と実施
- 平成24年7月 事前指導
- 平成25年12月21日 国際認証取得（中核市、九州の自治体で初めて）
- 平成29年 2月 具体的施策の見直し（42事業）



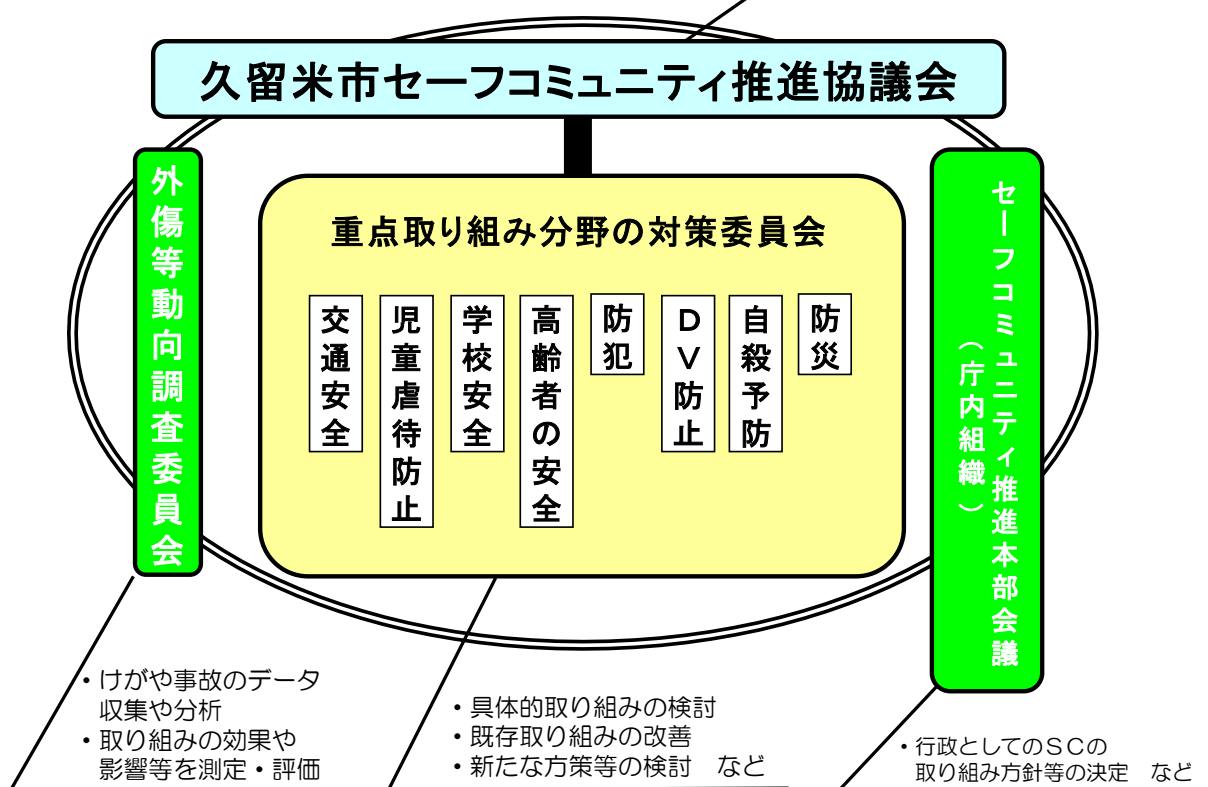
取り組み宣言時の様子



認証式典の様子

セーフコミュニティ推進体制

- ・SCの基本方針の協議・決定
- ・全市的な連絡調整 など



セーフコミュニティ推進協議会の様子



対策委員会の様子

主な数値的取り組み効果（分野別）

交通安全

データ分析

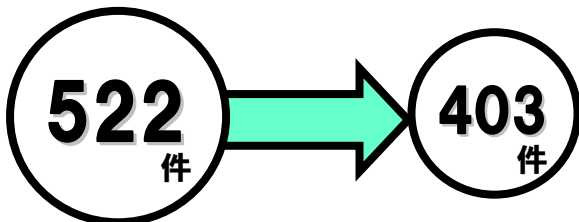
自転車関連事故は、10代での発生が突出して多い

とら 子どもたちの自転車事故や高齢者の交通事故を予防するため、年齢に応じた交通安全教室や、**くみ** 自転車利用のマナーアップキャンペーンなどを実施しています。

【自転車事故件数】 出典：警察統計

平成 23 年

平成 28 年



※22.8%減少



中学校での自転車教室



シルバーセーフティスクール

子どもの安全

データ分析

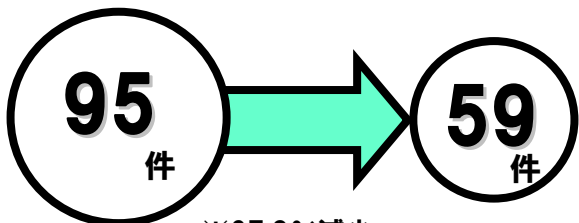
学校でのけがの多くが、休み時間に発生

とら 学校内や通学路でのけがや事故を予防するため、危険な場所を意識できる掲示板の作成や、**くみ** 校区内をフィールドワークして危険な場所をまとめた「校区安全マップ」を作成しています。

【上津小学校でのケガの発生件数】 出典：日本スポーツ振興センター統計

平成 23 年度

平成 28 年度



※37.9%減少

10月12日		上津小		けがのようす	
けがの種類	人数	けがした場所	人数	けがの種類	人数
転倒	31	教室	4	転倒	4
転落	2	運動場	31	転落	31
転踏	0	ろう下	1	転踏	1
転倒	1	体育館	2	転倒	2
その他	0	その他	2	その他	2

けがの種類・場所をまとめた掲示板



校区内でのフィールドワーク

高齢者の安全

データ分析

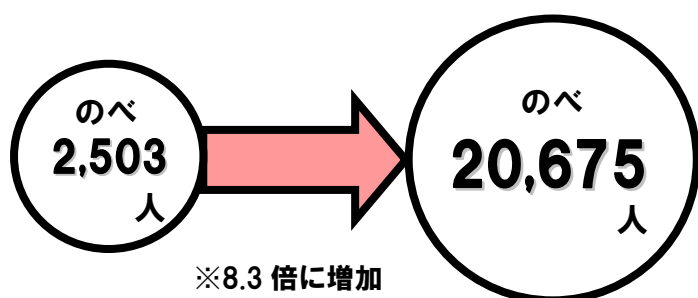
高齢者の虐待相談・通報件数は、横ばい状態

とら 認知症を正しく理解することで高齢者への虐待を防ぐため、認知症の人や家族を地域や職域な**くみ** どで温かく見守る「認知症サポーター」を養成しています。

【認知症サポーター養成講座受講者数】 出典：長寿支援課統計

平成 23 年度

平成 28 年度



※8.3倍に増加



認知症サポーターの養成講座

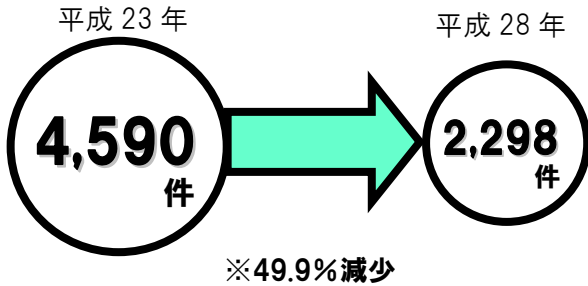
犯罪・暴力の予防

データ分析

犯罪は、大型商業施設・駅・繁華街で発生しやすい

とらみ 地域や人が多く集まる場所での犯罪を抑止するため、青色防犯パトカーによるパトロールを実施しています。また、DVを容認しない意識作りのため、中学生や高校生を対象に、デートDV防止の啓発講座を実施しています。

【一般刑法犯の認知件数】 出典：警察統計



大型商業施設付近での合同パトロール



中学校でのデートDV防止の啓発講座

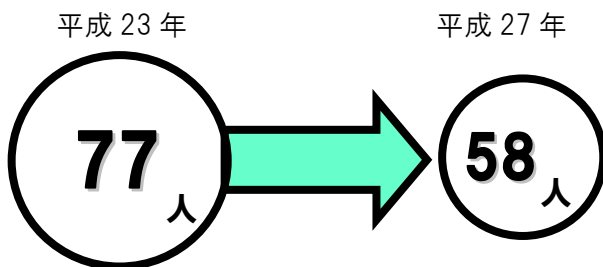
自殺予防

データ分析

自殺は、久留米市の事故等による死亡原因のトップ

とらみ 自殺を予防するため、自殺のサインに気づき相談窓口につなぐ「ゲートキーパー」の養成や、関係機関と連携して支援する体制づくりに取り組んでいます。

【自殺者数】 出典：人口動態統計



※いまだ 50 名以上の方が自殺で亡くなっています。



ゲートキーパーの養成講座

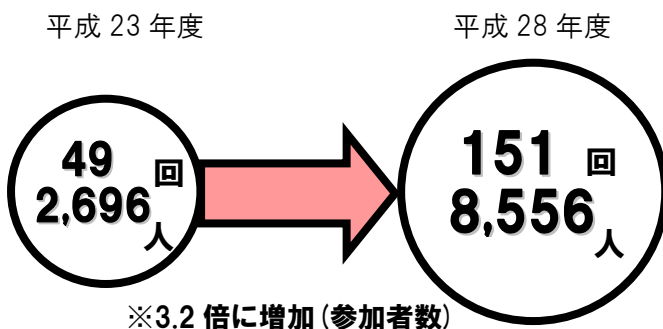
防災

データ分析

大規模災害時における救出者の約 9 割が家族や近隣住民

とらみ 地域による防災力を向上するため、各校区で自主防災訓練の実施や、自力や家族の協力では避難できない人の個別支援計画を作成しています。

【自主防災訓練の回数・参加者数】 出典：防災対策課統計



AEDの取扱い講座



自主防災訓練の様子

数値以外の主な取り組み効果

- 校区コミュニティ組織、医療機関、警察、民間事業者、関係団体などでは、取り組み開始前に比べてネットワークの構築が進んでいます。
- 校区まちづくり連絡連絡協議会では、「セーフコミュニティの推進」を事業方針に掲げており、各校区においては「安全・安心」に繋がる活動が積極的に行われています。
- 推進協議会の構成団体では、独自に発行する情報紙（広報紙）などに、セーフコミュニティ関連記事が掲載され、取り組みの浸透・普及啓発が図られています。
- 久留米市（行政）では、セーフコミュニティの重点取り組み項目や安全安心に関する予算・事業の充実が図られ、ハード面の整備や市民活動への支援が拡大されています。

更なる向上のための主な課題

○セーフコミュニティの認知度向上

セーフコミュニティの取り組みに対する認知度を更に向上(H26 市民意識調査:33%)させるため、特に若年層をターゲットにした広報啓発活動を展開する必要があります。

○取り組みの裾野拡大

現在は、校区コミュニティ組織や関係団体等が活動の中心となっていますが、今後は、家庭や個人、企業、NPO団体などに活動の浸透を図ることで、取り組みの裾野を拡げていく必要があります。

○連携・協働の新たな仕組みづくり

現在、セーフコミュニティ推進協議会や対策委員会の構成団体間の連携は進んでいますが、更なる連携の強化やより多くの団体・組織間の新たな連携・協働の仕組みをつくりながら、全市一体となった取り組みを推進していく必要があります。

今後の取り組み方針

これまでの取り組みにより、けがや事故・犯罪件数の減少、関係団体間の新たなネットワークの構築、安全・安心活動に対する意識の定着など、一定の成果も出始めていますが、地域社会が一体となった取り組みまでには至っていないのが実情です。

今後、久留米市が「日本一住みやすいまち・くるめ」を実現していくためには、市民一人ひとりが「けがや事故を予防する」セーフコミュニティの取り組みを、日常生活の中で実践し、安全・安心への意識を醸成することが必要だと考えます。

また、行政・地域コミュニティ組織・関係機関、各種団体などが、分野の垣根を越えて、更に「連携・協働」を推進し、久留米市全体の「安全・安心の質」を向上させていくことも必要だと考えます。

そのためには、「予防」と「協働」を軸とするセーフコミュニティの仕組みを活用することが最も有効であると考えますので、平成30年度に再認証を取得して、更なる効率的・効果的な取り組みを図っていきます。

平成29年度久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査について

	市民意識調査 設問数	候補設問数 (調整中)	年齢Ⅰ	年齢Ⅱ	年齢Ⅲ
フェイスシート	11	8	◎	◎	◎
共通質問	7	7	◎	◎	◎
高齢者の交通事故防止	0	14	×	×	○
自転車事故の防止	5	8	○	○	○
児童虐待の防止	4	8	○	×	×
学校の安全	1	6	○	×	×
高齢者の転倒予防	0	<u>7</u>	×	×	○
高齢者虐待の防止	2	<u>10</u>	×	○	○
犯罪の防止・防犯力の向上	1	13	○	○	○
DV防止と早期発見	4	<u>9</u>	×	○	×
自殺・うつ病の予防	4	11	×	○	×
地域防災力の向上	5	<u>7</u>	○	○	○
合計(調整後)	33	104	53	65	66
		調整前	58	81	83
前回(こども関係)					

年齢Ⅰ:0歳から17歳以下
 年齢Ⅱ:18歳から64歳以下
 年齢Ⅲ:65歳以上

久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

(子ども)

調査ご協力をお願い

日頃より、久留米市政にご理解とご協力を頂きありがとうございます。

市では、現在、WHO（世界保健機関）が推進している「セーフコミュニティ」活動に取り組んでおります。

この「セーフコミュニティ」は、市民の皆さんや関係団体と協働して事故やケガの予防に取り組むことにより、「みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり」を目指すものです。

今回の調査は、事故やケガの予防対策を立てるために、本市市民の事故やケガの状況を詳しく調査するものであり、調査内容は、事故やケガの経験、安全についての考え方などに関するものです。

つきましては、久留米市にお住まいの方の中から3,500名の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査主旨をご理解のうえ、ご協力をお願い申し上げます。

※ この調査結果は統計的に処理する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせ下さいますよう、お願い申し上げます。

平成29年8月

久留米市長 檜原 利則

●調査票の記入について

1. 回答は、調査対象者ご本人(封筒のあて名の人)がご記入ください。
ただし、ご本人のみでの回答が難しいときは、ご家族の方が聞き取りただいて、ご記入をお願いいたします
2. ご回答は、特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲ってください。
3. 調査票の回収については、お手数ですが **8月31日(木)まで**に、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、郵便ポストに投函いただきますようお願いいたします。
4. 本調査に関してご不明な点等がございましたら、お手数ですが下記の連絡先まで、ご連絡下さい。

問い合わせ・連絡先：久留米市 協働推進部 安全安心推進課

電話0942-30-9094、FAX0942-30-9706



セーフコミュニティ国際認証都市
久留米市

矢印で折り返して返信してください

矢印で折り返して返信してください

以下の質問は、調査結果を統計的に整理するために必要なものです。

ご記入に、ご協力をお願いいたします。

F 1 あなたの性別は。

1. 男性 2. 女性 3. 回答しない

F 2 あなたの年齢は。(平成 29 年 8 月 1 現在)

 歳

F 3 あなたの家（現在同居している方のみ）の家族構成は。

1. 単身 2. 夫婦のみ 3. 親・子（2世代）
4. 親・子・孫（三世代） 5. その他（具体的に： ）

F 4 あなたが現在同居している家族について、次のうちあてはまるものすべてに○印をつけてください。

1. 世帯の中に就学前の子どもがいる
2. 世帯の中に小学生がいる
3. 世帯の中に中学生がいる
4. 世帯の中に1～3以外の18歳未満の子どもがいる
5. 世帯の中に65歳以上の人がいる
6. 世帯の中に障害者手帳を持っている人がいる（本人を含みます）
7. 世帯に上記1～6にあてはまる人はいない

F 5 あなたのお住まいの住居形態は。

1. 持ち家（一戸建て）
2. 持ち家（集合住宅・分譲マンション）
3. 借家住宅（一戸建て）
4. 賃貸住宅（アパート、マンション）
5. 勤務先給与住宅（公務員住宅・社宅・寮など）
6. 間借り、その他（具体的に： ）

F 6 あなたの世帯は、自治会（町内会）に加入していますか。

1. 加入している 2. 加入していない
3. わからない

F 7 あなた、ふだん「広報くるめ」をどれくらい読んでいますか。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 毎号必ず読む | 2. ときどき読む |
| 3. あまり読まない | 4. まったく読まない |

F 8 あなたのお住まいの校区（小学校区）は。（○はひとつ）

- | | | | | | |
|--------|---------|--------|--------|-----------|---------|
| 1. 西国分 | 2. 荘島 | 3. 日吉 | 4. 篠山 | 5. 京町 | 6. 南薫 |
| 7. 鳥飼 | 8. 長門石 | 9. 小森野 | 10. 金丸 | 11. 東国分 | 12. 御井 |
| 13. 南 | 14. 合川 | 15. 山川 | 16. 上津 | 17. 高良内 | 18. 宮ノ陣 |
| 19. 山本 | 20. 草野 | 21. 安武 | 22. 荒木 | 23. 大善寺 | 24. 善導寺 |
| 25. 大橋 | 26. 青峰 | 27. 津福 | 28. 船越 | 29. 水縄 | 30. 田主丸 |
| 31. 水分 | 32. 竹野 | 33. 川会 | 34. 柴刈 | 35. 弓削 | 36. 北野 |
| 37. 大城 | 38. 金島 | 39. 城島 | 40. 下田 | 41. 江上 | 42. 青木 |
| 43. 浮島 | 44. 西牟田 | 45. 犬塚 | 46. 三瀧 | 47. わからない | |

以下の質問は、お子さんが2人以上いる方は年齢が一番下のお子さんについてお答えください。

問1. お子さんの年齢はいくつですか。(平成29年8月1日時点) () 歳

1 「過去の主なケガ」について

過去1年間(平成28年8月以降)の、お子さん~~あなた~~のケガの状況をお尋ねします。

問2. お子さん~~あなた~~は過去1年間にケガをされましたか。(〇はひとつ)

(ケガとは、骨折、捻挫、打撲、切り傷などで、病院にかからないようなものも対象とします。)

1. ケガをしたことがある 2. ケガはしてない

問1で、「1」と回答された方にお聞きします。

【注意】複数の経験があれば、最も重症だったものについて記入してください。

問2-1. ケガの原因は何でしたか。(〇はひとつ)

1. 交通事故 2. 転倒 3. 転落
4. 接触・衝突 5. はさまれた 6. モノの落下
7. 火傷 8. 鋭利なものへの接触
9. 虫などにさされた・蛇などにかまれた 10. 犬などにかまれた
11. 暴行 12. 異物を飲んだ 13. その他(具体的に:)

問2-2. ケガをした場所は、どこでしたか。(〇はひとつ)

1. 自宅(居間) 2. 自宅(寝室)
3. 自宅(風呂) 4. 自宅(1~3以外)
5. 学校 6. 勤務先
7. 仕事先の現場 8. 農地・林地
9. 公園 10. 駅・バス停
11. 商業・飲食・娯楽施設 12. スポーツ施設
13. 道路・歩道 14. その他(具体的に:)

問2-3. ケガをした状況・きっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 段差や物でつまづいた 2. 濡れた場所で滑った
3. バランスを崩した 4. あわてた
5. 酔っ払った 6. ぶつかった
7. よそ見・わき見をした 8. 考え事をしてた
9. 操作を誤った 10. 飛び出した
11. 身を乗り出した 12. その他(具体的に:)

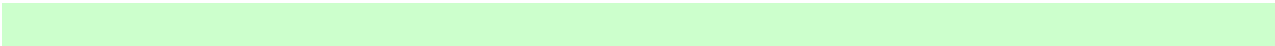
問2-4. ケガをした部位 (からだの場所) はどこですか。(○はひとつ)

*一番ひどく、傷の深かった部位や骨折、出血した部位を選んで○をつけて下さい。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. あたま (顔、目、鼻、耳、口内等) | 2. 首 |
| 3. うで (手、手首、ひじ等) | 4. 肩 |
| 5. 胸部 | 6. 背中 |
| 7. 腹部 | 8. 腰部 |
| 9. あし (足、足首、ひざ等) | 10. その他 (具体的に: _____) |

問2-5. どのようなケガでしたか。(○はひとつ)

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1. 脳挫傷・脳しんとう | 2. 骨折 |
| 3. ヤケド | 4. 脱臼 |
| 5. 捻挫 | 6. 打撲 |
| 7. 刺し傷・切り傷 | 8. すり傷・ひっかき傷 |
| 9. 中毒・誤飲 | 10. その他 (具体的に: _____) |



問4. 家庭内の安全対策に関する質問です。知っていたり、聞いたことがある項目の欄に○をつけてください。さらに、そのうち実践しているものに○をつけてください。
(あてはまるものすべてに○)

安全用品	知っている 聞いたことがある	実践している
1. 家具の角にかぶせものをする		
2. たんすや食器棚、流し台のドアが開かないように固定する		
3. 部屋のドアを固定し急に閉じないようにする		
4. 窓を固定し窓から出られないようにする		
5. コンセントカバー等を使用して感電を防止する		
6. コード類は束ねてつまづかないようにする		
7. 家電等のスイッチを勝手に入れられないようにする		
8. 子ども用の便座や蓋を使用してトイレの中に落ちないようにする		
9. 浴槽の床にマット等を敷きすべらないようにする		
10. 階段や段差に柵をして転落しないようにする		
11. その他、実践していることがあれば具体的に： ()

3 「過去の屋外でのケガ」について

問5. 過去1年間に、お子さんが久留米市内(自宅を除く)で、事故にあったり、ケガをした状況についてお答え下さい。その際、周りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。
(あてはまるものすべてに○)

ケガをした状況	該当するもの全てに○	→○の場合のみ、以下にお答えください	
		大人がいた場合に○	医療機関に行った場合に○
1. 川やプールなどでの溺水			
2. 交通事故(徒歩、自転車、自動車の乗車中)			
3. 道路や歩道を歩いているの転倒			
4. 公園の遊具(ブランコ、すべり台など)で遊んでいるのケガ			
5. 動物や虫などに咬まれたケガ			
6. 人や物(電柱など)に衝突			
7. 階段や高所からの転落			
8. 建物や電車のドアに挟まれたケガ			
9. 学校(校舎、体育館などの屋内)でのケガ(クラブ活動中も含む)			
10. 学校(グラウンド、プールなどの屋外)でのケガ(クラブ活動中も含む)			
11. 保育園・幼稚園でのケガ			
12. いじめによるケガ			
13. その他(具体的に:)			
14. ケガはしていない		/	/

2 「自転車事故の防止」について

3 「児童虐待の防止」について

問○. あなたは、次の行為等は児童虐待にあたると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもを叩いたり、蹴ったりする
2. 子どもにわいせつなものを見せる
3. 子どもの見える場所で配偶者や他の家族へ暴力をふるう
4. 乳幼児を家に残して外出する
5. 家の外に締め出す
6. 子どもに食事を与えない
7. しつけと称して、押入れやクローゼットに閉じ込める
8. 体罰でしつけをする
9. 子どもに必要な病気の治療を受けさせない
10. 無視して子どもの情緒的な欲求に答えない

問○. あなたは、児童虐待について以下のことを知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 児童相談所が対応した虐待事例では、6割は実母が虐待者となっている
2. 虐待をうけている子どもは自ら相談できないケースがほとんどである
3. 児童相談所で一時保護するケースが増えすぎて、期間も長期化している
4. 毎年児童虐待が原因で、年間60名程度の子どもが死亡している
5. 児童虐待や虐待されたと思われる子どもを発見した者は通報義務がある
6. 児童虐待の通報は匿名でもかまわない
7. 児童虐待を通報した者の秘密は守られる
8. 児童虐待防止のシンボルマークは「オレンジリボン」である
9. 毎年11月は児童虐待防止推進月間であり、オレンジリボンキャンペーンが行われる
10. 児童相談所全国共通ダイヤルの番号は「189」である

問○. あなたは、過去1年間（平成28年8月以降）に、児童虐待を見聞きしたことがありますか。(○はひとつ)

1. 全くない
2. 知人や友人から聞いたことがある
3. 近所で起きたことがある
4. 身内で起きたことがある

問○. あなたは、過去1年間（平成28年8月以降）に、自分が子どもを虐待しているのではないかと思うことがありましたか。(○はひとつ)

1. よくあった
2. ときどきあった
3. たまにあった
4. ほとんどなかった
5. 全くなかった
6. わからない

問○. 問○で「1」～「3」と回答された方にお聞きします。

あなたは、そのことをどう思っていますか。(○はひとつ)

1. 別に何とも思っていない
2. 子どもが悪いから、仕方ないと思う
3. 虐待は悪いことだと思うが、躰だから仕方ない
4. 悪いことで止めるべきと思うが、止められない
5. わからない

問○. 問○で「1」～「3」と回答された方にお聞きします。

あなたは、そのことを誰か又はどこかに相談していますか。(○はひとつ)

1. よく相談している
2. ときどき相談している
3. たまに相談している
4. 相談していない
5. 相談したいが、できない
6. 相談したいが、どこにしたらいいかわからない

問○. 問○で「1」～「3」と回答された方にお聞きします。

あなたが相談している相手方はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 同居中の家族
2. 他に住んでいる親族
3. 友人や知人
4. 民生委員や児童委員
5. NPOなど民間の相談機関
6. 市家庭子ども相談課など市の相談窓口
7. 県や国の相談機関
8. その他 ()

問○. あなたは児童虐待の防止策として何が有効だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子育て世帯に、物心両面での支援を強化する
2. 児童相談所などの公的機関の権限を強化する
3. 虐待者の処罰(刑罰を含む)を明らかにするとともに、厳しく処罰する
4. 里親、(特別)養子などの新たな親子関係を築きやすい環境整備をする
5. 俗に言う「赤ちゃんポスト」を増やす
6. 未婚の若い世代への研修や啓発を推進する
7. 虐待の疑いがある場合は関係機関に通告しやすい環境整備をする
8. 虐待防止の広報啓発活動を積極的に行なう

4 「学校の安全」について

* 調査対象のお子さんの年齢が、7歳以上の方のみ以下の質問にご回答ください。

問〇. 過去1年間（平成28年8月以降）に、お子さんは、けがや病気等で（健康診断や委員会活動は除く）学校の保健室を利用したことはありますか。（〇はひとつ）

1. 全く利用していない
2. 1～2回利用した
3. 3回から10回くらい利用した
4. 10回以上利用した

問〇. 問〇で1又は2と回答された方にお聞きします。

お子さんはどんなときに保健室を利用しましたか。（あてはまるものすべてに〇）

1. けがをしたとき
2. 病気や気分が悪くなったとき
3. 教室に入りたくないとき
4. 養護の先生に相談があったとき
5. その他（ ）

問〇. お子さんは、学校が終わって自宅に帰った後に出かける時、どのような交通手段で出かけることが多いですか。（〇はひとつ）

1. 自転車
2. 徒歩
3. 車で送迎
4. 公共交通機関
5. その他（ ）

問〇. 問〇で1と回答された方にお聞きします。

ヘルメットは着用していますか。（〇はひとつ）

1. 毎回きちんとヘルメットを着用している
2. だいたいヘルメットを着用している
3. どちらかといえば、ヘルメットを着用する時が多い
4. どちらかといえば、ヘルメットを着用しない時が多い
5. ヘルメットを持っていない

問〇. 過去1年間（平成28年8月以降）に、お子さんは不審者に遭ったことがありますか。

（あてはまるものすべてに〇）

1. あとをつけられた
2. 「こっちにおいで」などと声をかけられた
3. 写真やビデオなどを撮られた
4. 下半身など露出を見せられた
5. 所持品を渡すように脅された
6. その他（ ）
7. 遭ったことはない

問〇. 問〇で1～6と回答された方にお聞きします。

不審者に遭ったとき、お子さんはどんな対処をしましたか。（あてはまるものすべてに〇）

1. 急いで逃げた
2. 「110番の家」など近くの家へ逃げ込んだ
3. 大声で助けを呼んだ
4. 家の人に話した
5. 警察に通報した（家族等がしたものを含む）
6. 学校の先生に話した（家族等がしたものを含む）
7. 何もしなかった
8. その他（ ）

5 「犯罪の防止・防犯力の向上」について

6「地域防災力の向上」について

問○. 自然災害から身を守るために一番大切なものは何だと思いますか。(○はひとつ)

1. 自助 (各個人の日頃の準備とその時の行動)
2. 近助 (隣組単位での事前準備と取り組み)
3. 共助 (地元自治会、校区単位での事前準備と取り組み)
4. 公助 (国県市の各役割の事前準備と体制、動き)
5. わからない

問○. お子さんは、実際の災害時に自分ひとりで避難できると思いますか。(○はひとつ)

1. できる
2. たぶんできると思う
3. できない場合もあると思う
4. できない
5. わからない

問○で、「3、4」と回答された方にお聞きします。

問○. 避難するための対策を何かしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 同居の家族と一緒に避難できるよう相談している
2. 別居の親族にいつでも連絡できるようにしている
3. 病院や高齢者施設への入院入所を予約又は検討している
4. 市や地域包括支援センター等に相談している
5. 災害時要援護者名簿に登録している
6. 知人や近所の人に、支援してもらえるように頼んでいる
7. 特にしていない

問○. 防災や減災には「自助」が重要であることを啓発する有効な手段は何だと思いますか。

(あてはまるもの2つに○)

1. 著名な人を招いての講演会や討論会
2. 防災テーマのシンポジウムやフェスタ
3. 市職員・防災士等による出前講座
4. 防災の視点を取り入れたレクリエーション
5. カルタや紙芝居等を活用する
6. 各種啓発チラシやグッズをキャンペーン等で配布する
7. 市広報紙に関係記事を掲載する (特集号を含む)
8. 市ホームページに関係記事を掲載する
9. フェイスブックなどに関係情報を定期的に流す

問〇. 災害時要援護者名簿について、あなたにあてはまるものを選んでください。(〇はひとつ)

1. 災害時要援護者名簿があることを知っており、自分も登録している
2. 災害時要援護者名簿があることを知っており、自分も登録すべきと思うが登録していない
3. 災害時要援護者名簿があることを知っており、自分は支援者をしている
4. 災害時要援護者名簿があることを知っており、近いうちに登録したい
5. 災害時要援護者名簿があることを知っており、近いうちに支援者になりたい
6. 災害時要援護者名簿があることを知っているが、何も登録したくない
7. 災害時要援護者名簿があることは知らない

問〇で、「2、6」と回答された方にお聞きします。

問〇-1. あなたが名簿登録していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 手続きが分からない
2. 支援者とあわない
3. 他人の世話になりたくない
4. 災害時は個人的に頼んでいる人がいる
5. 自治会に加入していない
6. 期待していない
7. いつ災害があるか分からない
8. 特に理由はない

問〇-1で、「1～6」と回答された方にお聞きします。

問〇-2. あなたは、ご近所の災害時要援護者（未登録を含む）を知っていますか。

(あてはまるものすべてに〇)

1. 対象者とその支援者も知っている
2. 対象者は知っているが支援者は知らない
3. 対象者もその支援者も知らない

以上で、「久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査」を終了します。

ご協力ありがとうございました。

久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

(一般) ①

調査ご協力をお願い

日頃より、久留米市政にご理解とご協力を頂きありがとうございます。

市では、現在、WHO（世界保健機関）が推進している「セーフコミュニティ」活動に取り組んでおります。

この「セーフコミュニティ」は、市民の皆さんや関係団体と協働して事故やケガの予防に取り組むことにより、「みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり」を目指すものです。

今回の調査は、事故やケガの予防対策を立てるために、本市市民の事故やケガの状況を詳しく調査するものであり、調査内容は、事故やケガの経験、安全についての考え方などに関するものです。

つきましては、久留米市にお住まいの方の中から3,500名の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査主旨をご理解のうえ、ご協力をお願い申し上げます。

※ この調査結果は統計的に処理する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせ下さいますよう、お願い申し上げます。

平成29年8月

久留米市長 檜原 利則

●調査票の記入について

1. 回答は、調査対象者ご本人(封筒のあて名の人)がご記入ください。
ただし、ご本人のみでの回答が難しいときは、ご家族の方が聞き取りただいて、ご記入をお願いいたします
2. ご回答は、特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲ってください。
3. 調査票の回収については、お手数ですが **8月31日(木)まで**に、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、郵便ポストに投函いただきますようお願いいたします。
4. 本調査に関してご不明な点等がございましたら、お手数ですが下記の連絡先まで、ご連絡下さい。

問い合わせ・連絡先：久留米市 協働推進部 安全安心推進課

電話0942-30-9094、FAX0942-30-9706



以下の質問は、調査結果を統計的に整理するために必要なものです。

ご記入に、ご協力をお願いいたします。

F 1 あなたの性別は。

1. 男性 2. 女性 3. 回答しない

F 2 あなたの年齢は。(平成 29 年 8 月 1 現在)

() 歳

F 3 あなたの家（現在同居している方のみ）の家族構成は。

1. 単身 2. 夫婦のみ 3. 親・子（2世代）
4. 親・子・孫（三世代） 5. その他（具体的に： ）

F 4 あなたが現在同居している家族について、次のうちあてはまるものすべてに○印をつけてください。

1. 世帯の中に就学前の子どもがいる
2. 世帯の中に小学生がいる
3. 世帯の中に中学生がいる
4. 世帯の中に1～3以外の18歳未満の子どもがいる
5. 世帯の中に65歳以上の人がいる
6. 世帯の中に障害者手帳を持っている人がいる（本人を含みます）
7. 世帯に上記1～6にあてはまる人はいない

F 5 あなたのお住まいの住居形態は。

1. 持ち家（一戸建て）
2. 持ち家（集合住宅・分譲マンション）
3. 借家住宅（一戸建て）
4. 賃貸住宅（アパート、マンション）
5. 勤務先給与住宅（公務員住宅・社宅・寮など）
6. 間借り、その他（具体的に： ）

F 6 あなたの世帯は、自治会（町内会）に加入していますか。

1. 加入している 2. 加入していない
3. わからない

F 7 あなた、ふだん「広報くるめ」をどれくらい読んでいますか。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 毎号必ず読む | 2. ときどき読む |
| 3. あまり読まない | 4. まったく読まない |

F 8 あなたのお住まいの校区（小学校区）は。（○はひとつ）

- | | | | | | |
|--------|---------|--------|--------|-----------|---------|
| 1. 西国分 | 2. 荘島 | 3. 日吉 | 4. 篠山 | 5. 京町 | 6. 南薫 |
| 7. 鳥飼 | 8. 長門石 | 9. 小森野 | 10. 金丸 | 11. 東国分 | 12. 御井 |
| 13. 南 | 14. 合川 | 15. 山川 | 16. 上津 | 17. 高良内 | 18. 宮ノ陣 |
| 19. 山本 | 20. 草野 | 21. 安武 | 22. 荒木 | 23. 大善寺 | 24. 善導寺 |
| 25. 大橋 | 26. 青峰 | 27. 津福 | 28. 船越 | 29. 水縄 | 30. 田主丸 |
| 31. 水分 | 32. 竹野 | 33. 川会 | 34. 柴刈 | 35. 弓削 | 36. 北野 |
| 37. 大城 | 38. 金島 | 39. 城島 | 40. 下田 | 41. 江上 | 42. 青木 |
| 43. 浮島 | 44. 西牟田 | 45. 犬塚 | 46. 三瀨 | 47. わからない | |

問 1-4. ケガをした部位 (からだの場所) はどこですか。(○はひとつ)

*一番ひどく、傷の深かった部位や骨折、出血した部位を選んで○をつけて下さい。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. あたま (顔、目、鼻、耳、口内等) | 2. 首 |
| 3. うで (手、手首、ひじ等) | 4. 肩 |
| 5. 胸部 | 6. 背中 |
| 7. 腹部 | 8. 腰部 |
| 9. あし (足、足首、ひざ等) | 10. その他 (具体的に: _____) |

問 1-5. どのようなケガでしたか。(○はひとつ)

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1. 脳挫傷・脳しんとう | 2. 骨折 |
| 3. ヤケド | 4. 脱臼 |
| 5. 捻挫 | 6. 打撲 |
| 7. 刺し傷・切り傷 | 8. すり傷・ひっかき傷 |
| 9. 中毒・誤飲 | 10. その他 (具体的に: _____) |

2 「自転車事故の防止」について

3 「高齢者虐待の防止」について

問〇. あなたは、認知症の理解不足が虐待に繋がる場合があると思いますか。(〇はひとつ)

1. とてもそう思う
2. 少しそう思う
3. あまりそう思わない
4. 全くそう思わない
5. わからない

問〇. あなたは、認知症サポーターについてご存知ですか。(〇はひとつ)

1. 養成講座を受けたことがある
2. 名称は聞いたことがあり、近いうちに養成講座を受講したいと思う
3. 名称は聞いたことがあるが、養成講座を受講したいとは思わない
4. 名称も聞いたことはなく、養成講座も受講したくない
5. 名称も聞いたことはなく、何かよくわからない

問〇. あなたは、次の行為等は高齢者虐待にあたると思いますか。(あてはまるものすべてに〇)

1. つねる、たたく、殴る、蹴るなどの暴力行為を加える
2. 本人の合意なしに性的行為をする
3. 下半身を裸にして、放置する
4. 年金や預貯金等を取り上げ、本人の意思・利益に反して勝手に使う
5. 本人の意思や人格などをなじるような暴言を浴びせる
6. 快適に生活できるような食事、衣服、環境を与えない
7. 高齢者が話しかけてきても無視する

問〇. あなたは、過去1年間(平成28年8月以降)に自分が高齢者虐待をしているのではと思うことがありましたか。(〇はひとつ)

1. ようあった
2. ときどきあった
3. たまにあった
4. ほとんどなかった
5. まったくなかった
6. わからない

問〇で、「1」～「3」と回答された方にお聞きします。

問〇-1. そのことをどう思っていますか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 別に何とも思っていない
2. 相手が悪いから、仕方ないと思う
3. 虐待は悪いことだと思うが、仕方がない
4. 相談できるひとがなく、やめられない
5. わからない

問○で、「1」～「3」と回答された方にお聞きします。

問○-2. そのことを誰か又はどこかに相談していますか。(○はひとつ)

1. 相談している
2. 時々相談している
3. まれに相談している
4. 相談していない
5. 相談したいが、できない

問○. あなたは、過去1年間(平成28年8月以降)に虐待を受けた又は高齢者虐待を見聞きしたことがありますか。(○はひとつ)

1. 虐待を受けた
2. 虐待されたことがあったと思う
3. 虐待されたことはなかったと思う
4. 自分はされなかったが、人が虐待されたのを見聞きしたことはある
5. 自分が虐待されたことも、他人が虐待されるのを見聞きしたこともなかった

問○で、「1」、「2」、「4」と回答された方にお聞きします。

問○-1. 虐待がされた場所はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自宅
2. 医療又は介護施設(入所)、有料老人ホームなど
3. 医療又は介護施設(通所)
4. その他(具体的に:)
5. わからない

問○. あなたは、虐待被害を掴んだとき、現実には相談又は通報できますか。(○はひとつ)

1. できる
2. たぶん、できると思う
3. たぶん、できないと思う
4. できない
5. わからない

問○で、「3」又は「4」と回答された方にお聞きします。

問○-1. あなたができないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 間違っていたら、迷惑をかけるから
2. 虐待者からの逆恨みが怖いから
3. 他人の生活は自分には無関係で、関わりたくないから
4. どこにしたらいいかわからないから
5. 特に理由はない

4 「犯罪の防止・防犯力の向上」について

5 「DV 防止と早期発見」について

問〇. あなたは、配偶者や恋人などから以下の行為がなされたとき、DV（ドメスティックバイオレンス）にあたると思いますか。（あてはまるものすべてに〇）

1. 平手で打ったり、足で蹴る
2. 押したり、こづいたりする
3. 体を傷つけるかの性のあるもので殴る
4. 首をしめる
5. 人前でバカにしたり命令口調でものを言う
6. 大声で怒鳴る
7. 何を言っても無視する
8. 「誰のおかげで生活できているんだ」と言う
9. 家族や友人とのつきあいを制限する
10. 交友関係や外出先、電話やメールなどを細かくチェックする
11. 家計のやりくりを過度にチェックする
12. 家計に必要な生活費を入れない
13. 望まない性的な行為を強要する
14. 避妊に協力しない

問〇. あなたは、過去1年間（平成28年8月以降）にDVを受けた又は見聞きしたことがありますか。（あてはまるものすべてに〇）

1. 受けたことがある
2. 見聞きしたことがある
3. 受けたことも聞いたこともない

問〇で、「1」と回答された方にお聞きします。

問〇-1. あなたは、その後に何か対応しましたか。（あてはまるものすべてに〇）

1. 別れた（離婚を含む）
2. 逃げた
3. 二人で話し合った
4. 家族や親戚に相談した
5. 友人や知人に相談した
6. 医師やカウンセラー等に相談した
7. 久留米市男女平等推進センターに相談した
8. 久留米市家庭子ども相談課に相談した
10. 警察（交番）に連絡・相談した
11. 民生委員や人権擁護委員に相談した
12. その他の公的機関に相談した
13. 民間相談窓口相談した
14. 何もしなかった
15. その他（具体的に： _____)

問〇. DV 防止や早期発見に効果があると思う方策はどれですか。(あてはまるもの3つに〇)

1. DV は犯罪であり、人権侵害であることの広報周知を強化する
2. 警察の取り締まり（刑罰も含む）を強化する
3. DV 被害者相談窓口や支援メニューなどの広報周知を強化する
4. 子どものころから暴力防止の教育を行う
5. 被害者が声を出しやすいシステムを確立する
6. 市、警察や裁判所などが介入し易い環境を整備する
7. 相談窓口や相談員などの数を増やす
8. 医療関係者や子ども関係の職務関係者の DV への理解を深める

問〇. あなたは、配偶者又は恋人（ともに元を含む）に、DV をしていると思うことはありますか。(〇はひとつ)

1. よくある
2. ときどきある
3. あまりない
4. ほとんどない
5. まったくない
6. わからない

問〇で、「1」～「3」と回答された方にお聞きします。

問〇-1. そのことを、どのように思っていますか。(〇はひとつ)

1. 別に何とも思っていない
2. 相手が悪いから、仕方ないと思う
3. 悪いことだと思うが、やめられない
4. わからない

問〇で、「1」～「3」と回答された方にお聞きします。

問〇-2. そのことを誰か又はどこかに相談していますか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 相談している
2. ときどき相談している
3. まれに相談している
4. 相談していない
5. 相談したいが、できない

問〇. あなたは、「パープルリボン」についてご存知ですか。(〇はひとつ)

1. 知っていて活動に参加している
2. 活動には参加していないが、パープルリボンは知っている
3. パープルリボンは見たことはあるが、何か知らない
4. 知らない

問〇. あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか。(〇はひとつ)

1. 同感する
2. ある程度同感する
3. あまり同感しない
4. 同感しない

6「自殺・うつ病の予防」について

問〇. あなたは、自殺についてどのように思いますか。次のAからEのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

項目	そう思う	ややそう 思う	ややそう 思わない	そう思わ ない	わからな い
A 生死は最終的に本人の判断に任せるべきである	1	2	3	4	5
B 自殺せずに生きていれば良いことがある	1	2	3	4	5
C 自殺する人は、直前まで実行するかやめるか気持ちが揺れ動いている	1	2	3	4	5
D 責任を取って自殺することは仕方ない	1	2	3	4	5
E 自殺はその多くが防ぐことのできる社会的な問題である	1	2	3	4	5

問〇. あなたは、うつ病についてどのように思いますか。次のAからEのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いもの1つだけに○をつけてください。

項目	そう思う	ややそう 思う	ややそう 思わない	そう思わ ない	わからな い
A うつ病は精神的な弱さや性格が原因である	1	2	3	4	5
B うつ病は本人の怠け・甘えであり、病気ではない	1	2	3	4	5
C うつ病は休養をとることが大切である	1	2	3	4	5
D うつ病は早期発見・早期治療が大切である	1	2	3	4	5
E うつ病は適切な治療により治る病気である	1	2	3	4	5

問〇. 過去1年間（平成28年8月以降）に、うつ病ではないかと思った、又は、うつ病にかかったことはありますか。（○はひとつ）

1. うつ病では内科と思った
2. うつ病にかかった
3. そのようなことはなかった

問〇で、「1」又は「2」と回答された方にお聞きします。

問〇-1. 医療機関や相談窓口へ相談に行きましたか。(〇はひとつ)

1. 精神科の医療機関を受診した
2. 内科等のかかりつけ医を受診した
3. 相談窓口を利用した
4. どちらもしていない

問〇で、「4」と回答された方にお聞きします。

問〇-2. 医療機関や相談窓口を利用しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 自然と解決すると思ったから
2. 自力で対処しようと思ったから
3. 治療に時間がかかったり、仕事などで忙しく時間が無いから
4. お金がかかるから
5. どこに行けばよいか、誰に診てもらえばよいかわからなかったから
6. 治療や相談に行くことを他人に知られたくなかったから
7. 治療や相談に効果があると思わなかったから
8. その他(具体的に: _____)

問〇. 家族や知人がうつ病ではないかと思ったとき、医療機関や相談窓口へ行くことを勧めますか。(〇はひとつ)

1. 精神科医の受診を進める
2. 内科等のかかりつけ医の受診を勧める
3. 相談窓口を勧める
4. 勧めない
5. わからない

問〇. あなたはこれまでの人生の中で、自殺したいと思った又は自殺未遂を行った経験がありますか。(〇はひとつ)

1. 自殺行為を行ったことがある
2. 自殺したいと思ったことがある
3. 自殺したいと思ったことがない

問〇で、「1」又は「2」と回答された方にお聞きします。

問〇-1. 自殺したいと思った原因は何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 家庭に関する事
2. 健康に関する事
3. 経済的な問題
4. 勤務に関する事
5. 恋愛や結婚にかんすること
6. 学校に関する事
7. その他(具体的に: _____)

問○で、「2」と回答された方にお聞きします。

問○-2. 自殺を思いとどまった要因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族や友人、同僚などの身近な人に悩みを聞いてもらった
2. 医師やカウンセラーなどの心の健康に関する専門家に相談した
3. 弁護士や司法書士、公的機関の相談員など悩みの元となる分野の専門家に相談した
4. 自殺しようと思った原因が解決したから
5. 自殺対策のチラシやポスターを見た
6. できるだけ休養をとるようにした
7. 趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるようにした
8. その他(具体的に: _____)
9. 特に何もしなかった

問○. 久留米市では、自殺に関して正しく理解し、サインに気付いて声をかけ、相手の話に耳を傾け、適切な専門家へつなぎ、見守りをする人をゲートキーパーとして養成に取り組んでいます。あなたは「ゲートキーパー」について知っていますか。(○はひとつ)

1. 内容まで知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない
3. 全く知らない

問○. 自殺予防に必要なものは何と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 広報・啓発
2. 適切な精神科医療体制の整備
3. 自殺未遂者の支援
4. 様々な悩みに対応した相談窓口の設置・充実
5. 職場におけるメンタルヘルス対策の推進
6. 子どもの自殺についての知識を正しく理解するための教育
7. 様々な分野におけるゲートキーパーの養成
8. 自死遺族支援
9. その他(具体的に: _____)

7「地域防災力の向上」について

問○. 自然災害から身を守るために一番大切なものは何だと思いますか。(○はひとつ)

1. 自助 (各個人の日頃の準備とその時の行動)
2. 近助 (隣組単位での事前準備と取り組み)
3. 共助 (地元自治会、校区単位での事前準備と取り組み)
4. 公助 (国県市の各役割の事前準備と体制、動き)
5. わからない

問○. あなたは、実際の災害時に自分ひとりで避難できると思いますか。(○はひとつ)

1. できる
2. たぶんできると思う
3. できない場合もあると思う
4. できない
5. わからない

問○で、「3、4」と回答された方にお聞きします。

問○. 避難するための対策を何かしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 同居の家族と一緒に避難できるよう相談している
2. 別居の親族にいつでも連絡できるようにしている
3. 病院や高齢者施設への入院所を予約又は検討している
4. 市や地域包括支援センター等に相談している
5. 災害時要援護者名簿に登録している
6. 知人や近所の人に、支援してもらえるように頼んでいる
7. 特にしていない

問○. 防災や減災には自助が重要であることを啓発する有効な手段は何だと思いますか。

(あてはまるもの2つに○)

1. 著名な人を招いての講演会や討論会
2. 防災テーマのシンポジウムやフェスタ
3. 市職員・防災士等による出前講座
4. 防災の視点を取り入れたレクリエーション
5. カルタや紙芝居等を活用する
6. 各種啓発チラシやグッズをキャンペーン等で配布する
7. 市広報紙に関係記事を掲載する (特集号を含む)
8. 市ホームページに関係記事を掲載する
9. フェイスブックなどに関係情報を定期的に流す

問〇. 災害時要援護者名簿について、あなたにあてはまるものを選んでください。(〇はひとつ)

1. 災害時要援護者名簿があることを知っており、自分も登録している
2. 災害時要援護者名簿があることを知っており、自分も登録すべきと思うが登録していない
3. 災害時要援護者名簿があることを知っており、自分は支援者をしている
4. 災害時要援護者名簿があることを知っており、近いうちに登録したい
5. 災害時要援護者名簿があることを知っており、近いうちに支援者になりたい
6. 災害時要援護者名簿があることを知っているが、何も登録したくない
7. 災害時要援護者名簿があることは知らない

問〇で、「2」又は「6」と回答された方にお聞きします。

問〇-1. あなたが名簿登録していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 手続きが分からない
2. 支援者と会わない
3. 他人の世話になりたくない
4. 災害時は個人的に頼んでいる人がいる
5. 自治会に加入していない
6. 期待していない
7. いつ災害があるか分からない
8. 特に理由はない

問〇-1で、「1」～「6」と回答された方にお聞きします。

問〇-2. あなたは、ご近所の災害時要援護者（未登録を含む）を知っていますか。

(あてはまるものすべてに〇)

1. 対象者とその支援者も知っている
2. 対象者は知っているが支援者は知らない
3. 対象者もその支援者も知らない

以上で、「久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査」を終了します。

ご協力ありがとうございました。

久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査

(高齢者) ①

調査ご協力をお願い

日頃より、久留米市政にご理解とご協力を頂きありがとうございます。

市では、現在、WHO（世界保健機関）が推進している「セーフコミュニティ」活動に取り組んでおります。

この「セーフコミュニティ」は、市民の皆さんや関係団体と協働して事故やケガの予防に取り組むことにより、「みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり」を目指すものです。

今回の調査は、事故やケガの予防対策を立てるために、本市市民の事故やケガの状況を詳しく調査するものであり、調査内容は、事故やケガの経験、安全についての考え方などに関するものです。

つきましては、久留米市にお住まいの方の中から3,500名の方を無作為に選び、調査票をお送りしております。

ご多忙中、誠に恐縮ですが、調査主旨をご理解のうえ、ご協力をお願い申し上げます。

※ この調査結果は統計的に処理する以外の目的では一切利用いたしませんので、率直なご意見をお聞かせ下さいますよう、お願い申し上げます。

平成29年8月

久留米市長 檜原 利則

●調査票の記入について

1. 回答は、調査対象者ご本人(封筒のあて名の人)がご記入ください。
ただし、ご本人のみでの回答が難しいときは、ご家族の方が聞き取りただいて、ご記入をお願いいたします
2. ご回答は、特別の注意書きがない限り、回答欄中のあてはまる番号を○で囲ってください。
3. 調査票の回収については、お手数ですが **8月31日(木)まで**に、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、郵便ポストに投函いただきますようお願いいたします。
4. 本調査に関してご不明な点等がございましたら、お手数ですが下記の連絡先まで、ご連絡下さい。

問い合わせ・連絡先：久留米市 協働推進部 安全安心推進課

電話0942-30-9094、FAX0942-30-9706



以下の質問は、調査結果を統計的に整理するために必要なものです。

ご記入に、ご協力をお願いいたします。

F 1 あなたの性別は。

1. 男性 2. 女性 3. 回答しない

F 2 あなたの年齢は。(平成 29 年 8 月 1 現在)

() 歳

F 3 あなたの家（現在同居している方のみ）の家族構成は。

1. 単身 2. 夫婦のみ 3. 親・子（2世代）
4. 親・子・孫（三世代） 5. その他（具体的に： ）

F 4 あなたが現在同居している家族について、次のうちあてはまるものすべてに○印をつけてください。

1. 世帯の中に就学前の子どもがいる
2. 世帯の中に小学生がいる
3. 世帯の中に中学生がいる
4. 世帯の中に1～3以外の18歳未満の子どもがいる
5. 世帯の中に65歳以上の人がいる
6. 世帯の中に障害者手帳を持っている人がいる（本人を含みます）
7. 世帯に上記1～6にあてはまる人はいない

F 5 あなたのお住まいの住居形態は。

1. 持ち家（一戸建て）
2. 持ち家（集合住宅・分譲マンション）
3. 借家住宅（一戸建て）
4. 賃貸住宅（アパート、マンション）
5. 勤務先給与住宅（公務員住宅・社宅・寮など）
6. 間借り、その他（具体的に： ）

F 6 あなたの世帯は、自治会（町内会）に加入していますか。

1. 加入している 2. 加入していない
3. わからない

F 7 あなた、ふだん「広報くるめ」をどれくらい読んでいますか。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 毎号必ず読む | 2. ときどき読む |
| 3. あまり読まない | 4. まったく読まない |

F 8 あなたのお住まいの校区（小学校区）は。（○はひとつ）

- | | | | | | |
|--------|---------|--------|--------|-----------|---------|
| 1. 西国分 | 2. 荘島 | 3. 日吉 | 4. 篠山 | 5. 京町 | 6. 南薫 |
| 7. 鳥飼 | 8. 長門石 | 9. 小森野 | 10. 金丸 | 11. 東国分 | 12. 御井 |
| 13. 南 | 14. 合川 | 15. 山川 | 16. 上津 | 17. 高良内 | 18. 宮ノ陣 |
| 19. 山本 | 20. 草野 | 21. 安武 | 22. 荒木 | 23. 大善寺 | 24. 善導寺 |
| 25. 大橋 | 26. 青峰 | 27. 津福 | 28. 船越 | 29. 水縄 | 30. 田主丸 |
| 31. 水分 | 32. 竹野 | 33. 川会 | 34. 柴刈 | 35. 弓削 | 36. 北野 |
| 37. 大城 | 38. 金島 | 39. 城島 | 40. 下田 | 41. 江上 | 42. 青木 |
| 43. 浮島 | 44. 西牟田 | 45. 犬塚 | 46. 三瀧 | 47. わからない | |

1 「過去のケガ」について

過去1年間(平成28年8月以降)の、あなたのケガの状況をお尋ねします。

問1. あなたは過去1年間にケガをされましたか。(○はひとつ)

(ケガとは、骨折、捻挫、打撲、切り傷などで、病院にかからないようなものも対象とします。)

1. ケガをしたことがある 2. ケガはしてない

問1で、「1」と回答された方にお聞きします。

【注意】複数の経験があれば、最も重症だったものについて記入してください。

問1-1. ケガの原因は何でしたか。(○はひとつ)

1. 交通事故 2. 転倒 3. 転落
4. 接触・衝突 5. はさまれた 6. モノの落下
7. 火傷 8. 鋭利なものへの接触
9. 虫などにさされた・蛇などにかまれた 10. 犬などにかまれた
11. 暴行 12. 異物を飲んだ 13. その他(具体的に:)

問1-2. ケガをした場所は、どこでしたか。(○はひとつ)

1. 自宅(居間) 2. 自宅(寝室)
3. 自宅(風呂) 4. 自宅(1～3以外)
5. 学校 6. 勤務先
7. 仕事先の現場 8. 農地・林地
9. 公園 10. 駅・バス停
11. 商業・飲食・娯楽施設 12. スポーツ施設
13. 道路・歩道 14. その他(具体的に:)

問1-3. ケガをした状況・きっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 段差や物でつまづいた 2. 濡れた場所で滑った
3. バランスを崩した 4. あわてた
5. 酔っ払った 6. ぶつかった
7. よそ見・わき見をした 8. 考え事をしてた
9. 操作を誤った 10. 飛び出した
11. 身を乗り出した 12. その他(具体的に:)

問 1-4. ケガをした部位 (からだの場所) はどこですか。(○はひとつ)

* 一番ひどく、傷の深かった部位や骨折、出血した部位を選んで○をつけて下さい。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. あたま (顔、目、鼻、耳、口内等) | 2. 首 |
| 3. うで (手、手首、ひじ等) | 4. 肩 |
| 5. 胸部 | 6. 背中 |
| 7. 腹部 | 8. 腰部 |
| 9. あし (足、足首、ひざ等) | 10. その他 (具体的に: _____) |

問 1-5. どのようなケガでしたか。(○はひとつ)

- | | |
|--------------|------------------------|
| 1. 脳挫傷・脳しんとう | 2. 骨折 |
| 3. ヤケド | 4. 脱臼 |
| 5. 捻挫 | 6. 打撲 |
| 7. 刺し傷・切り傷 | 8. すり傷・ひっかき傷 |
| 9. 中毒・誤飲 | 10. その他 (具体的に: _____) |

2 「高齢者の交通事故防止」について

3 「自転車事故の防止」について

4 「高齢者の転倒予防」について

問〇. あなたは現在、介護保険の要介護認定を受けていますか。(〇はひとつ)

1. 要介護 (要介護 1～5)
2. 要支援 (要支援 1～2)
3. 申請したが非該当
4. 要介護認定の申請をしていない

問〇で、「1」又は「2」と回答された方にお聞きします。

問〇-1. 介護が必要になった主な原因は何ですか。(〇はひとつ)

1. 高齢による衰弱
2. 骨折や転倒 (交通事故を除く)
3. 脳卒中や心臓病等の病気
4. 認知症 (アルツハイマー病等)
5. 関節の病気 (リュウマチ等)
6. 視覚や聴覚障害
7. 交通事故
8. がん
9. その他 (具体的に:)

問〇. あなたは普段、転倒に対する不安はありますか。(〇はひとつ)

1. 不安を感じる
2. やや不安を感じる
3. あまり不安を感じない
4. 不安を感じない

問〇. あなたは、転倒によるケガを予防するために何かしていますか。(〇はひとつ)

1. 取り組んでいる
2. 必要性は感じるが、何もしていない
3. 必要性も感じないし、何もしていない

問〇で、「2」又は「3」と回答された方にお聞きします。

問〇-1. あなたが取り組んでいない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 健康や体力に不安がない
2. 時間がない
3. 何をすればいいかわからない
4. 一人では続かない
5. 教室等の開催場所にいけない
6. その他 (具体的に:)

問〇で、「1」と回答された方にお聞きします。

問〇-2. あなたが取り組んでいる転倒予防策は何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

また、その効果はありますか。

1. ラジオ体操など軽微な運動による体力維持 (ある・ない・わからない)
2. ウォーキングや散歩などの運動による体力維持 (ある・ない・わからない)
3. スポーツなど継続的な運動による体力維持 (ある・ない・わからない)
4. 転倒や骨折予防等のための各種教室等への参加 (ある・ない・わからない)
5. 食生活の改善や注意 (ある・ない・わからない)
6. 薬の副作用 (めまいやふらつきなど) や病気への注意 (ある・ない・わからない)
7. 転倒しにくい自宅内の環境整備 (ある・ない・わからない)
8. その他 (具体的に:) (ある・ない・わからない)

問○. あなたは、当市で発行している転倒予防のパンフレットをご存知ですか。(○はひとつ)

1. 参考になるので、実際に利用している
2. 参考になるが、実際には活用していない
3. あまり参考にならない
4. 見聞きしたことはあるが、内容は知らない
5. あることも知らない

問○で、「1」と回答された方にお聞きします。

問○. あなたが取り組んでいる自宅内の環境整備は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

また、その効果はあると思いますか。

1. 住宅をバリアフリーに配慮して建てた (選んだ) (ある・ない・わからない)
2. 玄関や段差があるところにスロープを設置している (ある・ない・わからない)
3. 風呂やトイレ、廊下等に手すりを設置している (ある・ない・わからない)
4. ベッド等に補助器具をつけている (ある・ない・わからない)
5. 足元を照らす証明をつけている (ある・ない・わからない)
6. 福祉用具を使用している (ある・ない・わからない)
7. 整理整頓を心がけ、床や廊下に不要な物を置かない (ある・ない・わからない)
8. その他 (具体的に:) (ある・ない・わからない)

5 「高齢者虐待の防止」について

問〇. あなたは、認知症の理解不足が虐待に繋がる場合があると思いますか。(〇はひとつ)

1. とてもそう思う
2. 少しそう思う
3. あまりそう思わない
4. 全くそう思わない
5. わからない

問〇. あなたは、認知症サポーターについてご存知ですか。(〇はひとつ)

1. 養成講座を受けたことがある
2. 名称は聞いたことがあり、近いうちに養成講座を受講したいと思う
3. 名称は聞いたことがあるが、養成講座を受講したいとは思わない
4. 名称も聞いたことはなく、養成講座も受講したくない
5. 名称も聞いたことはなく、何かよくわからない

問〇. あなたは、次の行為等は高齢者虐待にあたると思いますか。(あてはまるものすべてに〇)

1. つねる、たたく、殴る、蹴るなどの暴力行為を加える
2. 本人の合意なしに性的行為をする
3. 下半身を裸にして、放置する
4. 年金や預貯金等を取り上げ、本人の意思・利益に反して勝手に使う
5. 本人の意思や人格などをなじるような暴言を浴びせる
6. 快適に生活できるような食事、衣服、環境を与えない
7. 高齢者が話しかけてきても無視する

問〇. あなたは、過去1年間(平成28年8月以降)に自分が高齢者虐待をしているのではと思うことがありましたか。(〇はひとつ)

1. よくあった
2. ときどきあった
3. たまにあった
4. ほとんどなかった
5. まったくなかった
6. わからない

問〇で、「1」～「3」と回答された方にお聞きします。

問〇-1. そのことをどう思っていますか。(〇はひとつ)

1. 別に何とも思っていない
2. 相手が悪いから、仕方ないと思う
3. 虐待は悪いことだと思うが、仕方がない
4. 相談できる人がなく、やめられない
5. わからない

問○で、「1」～「3」と回答された方にお聞きします。

問○-2. そのことを誰か又はどこかに相談していますか。(○はひとつ)

1. 相談している
2. 時々相談している
3. まれに相談している
4. 相談していない
5. 相談したいが、できない

問○. あなたは、過去1年間(平成28年8月以降)に虐待を受けた又は高齢者虐待を見聞きしたことがありますか。(○はひとつ)

1. 虐待を受けた
2. 虐待されたことがあったと思う
3. 虐待されたことはなかったと思う
4. 自分はされなかったが、人が虐待されたのを見聞きしたことはある
5. 自分が虐待されたことも、他人が虐待されるのを見聞きしたこともなかった

問○で、「1」、「2」、「4」と回答された方にお聞きします。

問○-1. 虐待がされた場所はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自宅
2. 医療又は介護施設(入所)、有料老人ホームなど
3. 医療又は介護施設(通所)
4. その他(具体的に:)
5. わからない

問○. あなたは、虐待被害を掴んだとき、現実に相談又は通報できますか。(○はひとつ)

1. できる
2. たぶん、できると思う
3. たぶん、できないと思う
4. できない
5. わからない

問○で、「3」又は「4」と回答された方にお聞きします。

問○-1. あなたが相談又は通報できないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 間違っていたら、迷惑をかけるから
2. 虐待者からの逆恨みが怖いから
3. 他人の生活は自分には無関係で、関わりたくないから
4. どこにしたらいいかわからないから
5. 特に理由はない

6 「犯罪の防止・防犯力の向上」について

7「地域防災力の向上」について

問○. 自然災害から身を守るために一番大切なものは何だと思いますか。(○はひとつ)

1. 自助 (各個人の日頃の準備とその時の行動)
2. 近助 (隣組単位での事前準備と取り組み)
3. 共助 (地元自治会、校区単位での事前準備と取り組み)
4. 公助 (国県市の各役割の事前準備と体制、動き)
5. わからない

問○. あなたは、実際の災害時に自分ひとりで避難できると思いますか。(○はひとつ)

1. できる
2. たぶんできると思う
3. できない場合もあると思う
4. できない
5. わからない

問○で、「3」又は「4」と回答された方にお聞きします。

問○. 避難するための対策を何かしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 同居の家族と一緒に避難できるよう相談している
2. 別居の親族にいつでも連絡できるようにしている
3. 病院や高齢者施設への入院所を予約又は検討している
4. 市や地域包括支援センター等に相談している
5. 災害時要援護者名簿に登録している
6. 知人や近所の人に、支援してもらえるように頼んでいる
7. 特にしていない

問○. 防災や減災には「自助」が重要であることを啓発する有効な手段は何だと思いますか。

(あてはまるもの2つに○)

1. 著名な人を招いての講演会や討論会
2. 防災テーマのシンポジウムやフェスタ
3. 市職員・防災士等による出前講座
4. 防災の視点を取り入れたレクリエーション
5. カルタや紙芝居等を活用する
6. 各種啓発チラシやグッズをキャンペーン等で配布する
7. 市広報紙に関係記事を掲載する (特集号を含む)
8. 市ホームページに関係記事を掲載する
9. フェイスブックなどに関係情報を定期的に流す

問〇. 災害時要援護者名簿について、あなたにあてはまるものを選んでください。(〇はひとつ)

1. 災害時要援護者名簿があることを知っており、自分も登録している
2. 災害時要援護者名簿があることを知っており、自分も登録すべきと思うが登録していない
3. 災害時要援護者名簿があることを知っており、自分は支援者をしている
4. 災害時要援護者名簿があることを知っており、近いうちに登録したい
5. 災害時要援護者名簿があることを知っており、近いうちに支援者になりたい
6. 災害時要援護者名簿があることを知っているが、何も登録したくない
7. 災害時要援護者名簿があることは知らない

問〇で、「2」又は「6」と回答された方にお聞きします。

問〇-1. あなたが名簿登録していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 手続きが分からない
2. 支援者と会わない
3. 他人の世話になりたくない
4. 災害時は個人的に頼んでいる人がいる
5. 自治会に加入していない
6. 期待していない
7. いつ災害があるか分からない
8. 特に理由はない

問〇-1で、「1」～「6」と回答された方にお聞きします。

問〇-2. あなたは、ご近所の災害時要援護者（未登録を含む）を知っていますか。

(あてはまるものすべてに〇)

1. 対象者とその支援者も知っている
2. 対象者は知っているが支援者は知らない
3. 対象者もその支援者も知らない

以上で、「久留米市のセーフコミュニティに関する実態調査」を終了します。

ご協力ありがとうございました。